

【朝鮮語】

読書案内

■山室信一『日露戦争の世紀—連鎖視点から見る日本と世界—』岩波新書 2005年

この本のキーワードは「連鎖」です。日露戦争に至る50年と日露戦争後の50年という100年、そして日露戦争に始まり「戦争と革命の世紀」と呼ばれた20世紀の100年を、「連鎖視点」で捉えた本書は、朝鮮が日本の植民地とされた時代の背景を、世界史的な繋がりとの視点で解き明かしてくれます。

■姜在彦『日本による朝鮮支配の40年』朝日文庫 1992年

日本による統監政治の始まった1906年から朝鮮が解放される1945年までの期間、つまり、日本が日露戦争に勝利してから太平洋戦争に敗北するまでの期間に、朝鮮で何が起きたのか、コンパクトに分かりやすく解説した書です。

■韓洪九著、高崎宗司訳『韓洪九の韓国現代史 韓国とはどういう国か』平凡社 2003年 『韓洪九の韓国現代史 (2) 負の歴史から何を学ぶのか』平凡社 2005年

韓国の時事週刊誌『ハンギョレ 21』に連載された歴史コラムをまとめたもので、韓国では既に4巻まで出版されています。コラムをまとめたものですから、「現代史」とは言っても、歴史を時系列に解説したものではありません。ベトナム戦争に参戦した韓国軍によるベトナム良民虐殺、在韓中国人に対する差別事件、左右対立の政治史など、韓国現代史のタブーに挑み、鋭く、そして読みやすく展開されていきます。韓国民主化運動世代の優れた歴史家の視点に是非、触れてみてください。まだ日本語に訳出されていない3巻、4巻は原語で読むことを目標にしたらいいのではないのでしょうか。

■文京洙『韓国現代史』岩波新書 2005年

こちらは韓国の解放後60年を鳥瞰した歴史書といえます。韓洪九氏の著書と合わせ読めば、韓国現代史への理解が深まるはずですが、抑制のきいた語り口ですが、この書からも著者の視点が読み取れるはずですが。

■伊藤亜人、梶村秀樹、高崎宗司、木村益夫、武田幸男『朝鮮を知る辞典』平凡社 2000年 (増補版)

初版は1986年に出版されています。朝鮮の政治、社会、文化、歴史などあらゆる分野にわたる事柄を五十音順に項目を並べて解説しているので、分からないことが出てきた時のお助け本として役立ちます。

■渡辺吉鎔、鈴木孝夫『朝鮮語のすすめ』講談社現代新書 1981年

朝鮮語を通して朝鮮の文化を知り、それが日本語と日本の文化を知ることにも繋がることを教えてくれる本。朝鮮語を学ぶ手がかりとして読んでみては？もう 30 年ほど前に書かれたものですが、今でも版が重ねられているので、容易に入手できます。